

# 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ(第2回) 開催結果



ワークショップの様子

## 環境省上川・東川・上士幌自然保護官事務所

今回のワークショップでは各地域の情報交換会後にお時間を頂き、情報交換会を登山道維持管理部会に移行するという提案に対して2つのテーマ「①部会では何を実施したいか？すべきか？」、「②部会に必要なもの、こと、機能は何か？」を設定し参加者からの沢山のご意見を頂きました。行政機関、民間団体、有識者の皆様、ご参加ありがとうございました。ワークショップ質疑応答・学識者コメントは右側、意見のまとめは裏面をご覧ください。

## ワークショップ開催日時・場所、参加者

	開催日時・場所	参加者数
表大雪地域	平成30年 7月2日(月) 14:30~16:00 旭川地場産業 振興センター (旭川市)	48名 ・行政機関、民間団体46名 ・学識経験者2名 (48名を2グループに分け実施)
東大雪地域	平成30年 6月29日(金) 15:00~16:30 鹿追町役場 (鹿追町)	20名 ・行政機関、民間団体20名 (20名1グループで実施)

### 【配布資料】

- ワークショップ次第
- 参加者名簿(地域別の名簿)
- 資料1 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップの開催趣旨
- 資料2 第1回ワークショップの結果概要
- 資料3 第1回ワークショップの結果を踏まえた民間団体の協働型管理運営体制への関わり方に関する提案
- 資料4 ワークショップの進め方
- 参考資料1 第1回ワークショップの結果(詳細版)

## 当日のプログラム(表大雪地域、東大雪地域共通)

1. 開会
2. ワークショップ開催の趣旨、第1回ワークショップの結果及び同結果を踏まえた民間団体の協働型管理運営体制への関わり方に関する提案(30分)
3. ワークショップ「登山道維持管理部会で実施したいこと」(50分)
4. まとめ(10分)  
ワークショップ全体のまとめとして有識者からのコメント

## ワークショップでの質疑応答と学識経験者のコメント

### 表大雪地域での質疑応答

三木氏	資料1~3の説明は登山道に特化されていたようだが、トイレ部会、道標部会など個別に作っていくのか。
柵自然保護官	登山道維持管理部会は登山道そのものだけでなく付帯施設と一緒に議論していくほうが効率的だと思う。施設の老朽化対策だけでなくトイレ問題も含めて登山道維持管理部会の中で考えていければよい。
渡辺先生	第1回のワークショップの結果を受けてと書いてあるが、結果の内容が大事だったから今回のワークショップになったのか、それとは別に結果を無視して今回のワークショップの意見を書き始めていいのかが良く分からない。
柵自然保護官	前回の結果から、情報交換会のメンバーにおいては登山道関係に特化して議論した方が良いと考えて、今回の設問にした。
北岡氏	前回のワークショップでは総合型協議会といった全体的な話に対して、参加者はイメージが湧かず意見も出なかった。今回は登山道に絞って意見をいただく方が良いのではないかといいことでは。
愛甲先生	ここにいる皆さんが全員第1回のワークショップに出ていたわけではないし、参加した人がその内容を覚えているわけでもない。資料2の最後のページのまとめに書いてあることを今の説明としてもう一度見てほしいと思う。また、今回は登山道維持管理部会になると決まったわけではなく、そうした提案に対しても意見をいただくということで考えていただければ誤解が無いようにと思う。

### 表大雪地域での学識経験者のコメント

愛甲先生	本日の資料の中に前回のワークショップの報告書資料も入っていたのは良かった。皆さん気にされていると思うが、今回話し合った結果がこの後どうなるのか、各自治体と柵さんが今進められている総合型協議会設立に向けた調整の中で我々登山道情報交換会の関係者の意見がどう扱われていくのか。そのため今回のワークショップの結果も出来るだけ早く皆さんと共有した方が良いのではないかといいと思う。 もう一つは、いずれ考えて行かないといけなと思うが、登山道維持管理部会を作ると責任も生じる。登山道維持管理部会自体が事業主体になるわけではないとの話もあったが、利用している人から見ればそこで何かを決めていることにも見えるため、責任の分担やリスク管理をどうするかということもきちんと話していかなければならないと感じた。
渡辺先生	まとめのコメントと言うより、皆さんに問いかけをしたい。第1回目のワークショップの結果の資料がここにあるが、どれだけの人がこの内容をそしゃく・消化して来ているのか？ほとんどされてないのではないかといいと思うが、その状況で今回2回目をした。この結果をどれだけの人が消化できるのか、消化には時間が必要なのではないかと思うのだが皆さんどう思うか。振り返りがあって次に行く方が良いのではないかといい感じた。具体的には、本日柵さんが言われたように両地域で新しい総合型協議会についてイメージできていないということがある。これは非常に大きな問題だ。今の大連協の皆さんが新しい総合型協議会について本当に合意形成出来ているのだろうか、その声を私たちが生で聞かなくていいのだろうか、私たちは登山道維持管理部会としてやっていけるのだろうかという心配がある。そこら辺を皆さん自身にも聞いていただけて頂きたいと思う。 後は、愛甲先生も発言していた登山道維持管理部会のことだが、今の情報交換会は自発的にやって、よいバランスで上手くやってこられたが、登山道維持管理部会が一旦できてしまうと上に新しい大連協が出来て、上から言われたことをそのまま実行するという覚悟があるのか。また、登山道維持管理部会には一定の独立性というものが必要と思うが、その時には愛甲先生がおっしゃったような責任というものが関わってくるのでそれについても皆さん覚悟がおりになるのか、そうなることがハッピーなのかを考えてほしい。今は総合型協議会や登山道維持管理部会は案の段階であるが、黙っていればこの案がそのまま決定になってしまうということを周りの人ときちんと話し合い、これで大丈夫だという所まで話し合えないといけない時期に来ているのではないかといい思う。 こんな風に言うといつも暗いことを言うように思われるが、岡崎さんが言っていたように楽しくやっていくということは大好きで、うまく観光と結び付けられると新しい人が関わることになるので、その仕組みを何とか皆さんと一緒に楽しくやっていけると素晴らしいと思う。

### 東大雪地域での質疑応答

大西氏	今回のワークショップは登山道維持管理部会を設置する前提でのワークショップと考えていいか。情報交換会を登山道維持管理部会としたい理由は何か？
柵自然保護官	情報交換会は登山道の情報を持ちあって交換することで、それはそれで意義があることだが、登山道に関しては課題や解決しなければならない問題があり、それらを議論して調整していくことが必要だと思う。情報交換の機能に加えて調整や合意形成の機能を付け加えたいということで提案させてもらった。
斎藤氏	ワークショップの上では理想的な考え方で喋っていると思うのだが、現実的に解決出来ない課題もありそのギャップの部分はどこをどう考えているのか。トイレ1つを取ってみても、トイレを山の上に作つたらいいと思うが、維持管理をどうするのかといった現実的な問題が出てくる。それを現実的にどうするかを議論することになるとは思うが・・・。
柵自然保護官	イメージしていることが同じかどうか分からないが、おっしゃる通りのこともあると思う。何が出来るかをメンバーの知恵を出し合って議論する場にしていきたいと思っている。
岡崎氏	話し合いの場を増やすのか。
柵自然保護官	話し合いの回数は増えないが、話し合いの項目が増えると考えている。
岡崎氏	自分としては新しい大連協の方々に話を聞いてもらえれば有難いと思っている。いつも思うことは裾合平やトムラウシでのことは関係者にとっては別の地区のことと思いがたがるが、一般の人にとっては大雪山で起ったこととして一括りになっている。新しい大連協のメンバーに対しては、登山道が崩れて怪我人も出しており、道は崩れて放置されているのに何もせず、外国人登山者には恥ずかしくてしょうがないと思っているので、直接新しい大連協のメンバーに言いたいと思っている。一方、歩道のことのみを考えていくのならそれはそれで具体的にいいのが、大雪山をどうするのか？という所から考えていかないとどうしても個別の話になり、あちらとこちらで別々に話が進んで、大雪山全体として進んではいけないと思っている。話し合うことを増やすということは賛成なのだが、話し合う相手は選ばなければならない。
柵自然保護官	将来像を考えると現場の人が関わらないといけなと思う。新しい大連協のメンバーが現場を巡検することなどが必要だし、そうした時に維持管理部会の協力を得て行うなどの工夫は出来るかなと思っている。今、きいた話は新しい大連協と登山道維持管理部会との相互交流が必要ということだと受け止め今後考えていきたい。

※東大雪地域には学識経験者の出席は無し

# ワークショップ意見のまとめ

情報交換会から登山道維持管理部会に移行するという提案を受けて…  
 「①部会では何を実施したいか？すべきか？」→黄色付箋で回答  
 「②部会に必要なもの、こと、機能は何か？」→緑色付箋で回答

表大雪地域付箋

56枚	42枚
-----	-----

東大雪地域付箋

29枚	26枚
-----	-----

## 情報の発信・共有

## 部会のあり方・視点

### 部会メンバーと利用者への情報提供

情報共有・提示

個人の「出来ること」を知る	登山道全体の詳細な情報提示	国立公園に関わる全般的な情報の共有	情報交換会にとどまらず、他団体へのアドバイスが出来る環境
危険箇所等の周知と情報共有	登山者に対する登山道利用マナーの指導をどうするか考えるべき	各自が何が出来るか、出来ることの共有	登山道に関する情報提供・収集
自己紹介・交流（何を担当している人？どんな人？か分からない）	情報を収集し、利用者に対しての情報提供	団体間の意見交換	情報収集・提供

外国人観光客について

外国人や一般利用者への情報提供（見頃・見所・危険箇所等）	外国人対応	外国人に対応できる共通の認識・システムの形成
------------------------------	-------	------------------------

情報の内容

利用者へのサービス向上（トイレ・道標・案内板）	ルートが長く、道のくずれが進んでいる	最新情報を共有するためのシステムづくり	登山道の状況毎の補修方法、技術の共有
技術の発信（補修と復元は違う視点が必要）	山岳ガイドに対して登山道に関する幅広い調査（山岳ガイドの声・登山者の声）	行政のHPの見直し	登山口までのアクセス→災害・不通→復旧の目安
		大雪山グレード別の状況の共有化	山を良くするルートマップ作り

### 情報発信に関すること（利用者等へ）

発信する人・内容

登山道の荒廃の問題を利用者へ伝える	大雪山利用者に対する一元化の登山道情報の発信
環境保全をしないと観光は成り立たないと理解させる	国立公園指定の意義（保護と利用）に基づいて利用者に対する教育を如何にしたらいか
登山道の整備が進むと時間の短縮が図れる	部会での内容を関係者以外の人々に伝える
一般登山者への広報	一般の方への情報公開

発信のアイデア

実施した事の可視化	部会としてのHPを持ち発信
登山者への情報源"見ため"一元化	富士山のようなイベント
情報の一元化	情報発信機能の強化

### 部会内での情報管理

課題の表明と対策実施の検証と公開制度	情報交換会以外での交流の場
行政担当者が引き継げる情報のまとめ	表大雪と東大雪の情報共有を密にする方策の実施
メンバーリスト等ネットまたはメールで議論・情報共有できる仕組み	現場の詳細な情報

その他

- 提案に賛成します
- 各配布用印刷物の必要性の検討

### 人に関すること

広い視点・人材 ← 限定的な視点・人材

観光セクターの積極的参加	全体をとらえる視点と多様な視点（観光サイト）	民間のみにする	（思い付きでない）科学的である人・自然
組織的意見は良い。関係者や山に登る団体だけでなく観光で来る人の意見もあれば良い	幅広い参加者やネットワーク	部会に必要な人材	
	多分野の人材活用	主体となる人・機能	メンバー高齢化対策と人材育成

### 組織・運営など主にソフト面に関すること

運営に関すること

管理運営の…コストを下げる、リスクを下げる、成果を挙げる、安定した体制を整える…方策を考えたい	スピード感のある意志決定機能	内容も大事だが、時期を早く、時間を十分にとって欲しい	合意形成→素案作り、意思決定（管理者）、実施（各団体）という機能	維持管理の実働部隊は民間ボランティアの活用は絶対必要になるのでその組織化や活用方法の標準化	楽しさ
	部会内での専門分科会	維持管理に関する場所別または団体別の協働と役割分担	第三者の視点		話しやすい雰囲気

部会の開催回数と時期

シーズン中ごろの情報交換	年2回だけでなくシーズン中も情報を共有し合う事	部会の回数を増やす(中間で)
--------------	-------------------------	----------------

部会での決め事

組織としての確立。代表者を定める、規約を設ける等	組織・規約・代表者・事務所	一定のメンバーと決め方のルール
--------------------------	---------------	-----------------

### 理念・目的・方針とその議論

目的・方針の共有や議論

部会として大連協総会に参加し、「山」の現状を問題提起する	負担少なく、長くやれる	部会メンバーの登山道に対する認識や考え方を整理したい	どうゆう山であるべきか？検討
グレードに応じた登山道の将来像のコンセンサス	「広く大雪山としての方向」、「詳細は現場としての視点」の双方を踏まえて	自分の範疇だけでなく大雪山の一つとしてとらえる認識	目的の共有
各登山道のあるべき姿、"美しい"という共通認識	方向性・方針の議論	大雪山全体をどうしていきたいのか、どうなるべきかの共有	大連協メンバーへの問題や情報の提示

理念

大雪山としての夢と目標を語る場になること	愛	何を實施したいか？夢を語る	山を子孫にいい形で引き渡す
	理念を語る		

### 部会で扱うテーマの種類、部会の組織の設定

登山道維持管理部会ではトイレ問題も扱う事を明記すべき	案内看板少ない(途中で不安になる)	避難小屋の更新に関わって欲しい	トイレ問題に関わってほしい
野営指定地、避難小屋、トイレの維持管理	野営場が少なく安心できる場所がない	山小屋の維持管理、更新も含めたビジョン作成	トイレの老朽化が激しい。早目に利用者数データを把握すべき

## 外部組織との関係

## 部会での課題解決

### 部会などの権限と対行政に関すること

権限

確約書の権限を超越した維持管理権限	総合型協議会からの一定の独立性	大雪の事は登山道維持管理部会に聞くといふ権威	権限
登山道毎の利活用の想定または立ち入り禁止区域など	ある程度の権限		この場で決定できる

組織間の調整

管理者同士の調整と決定	行政機関との協定
各機関との調整役	行政と山岳会の関係

未執行区間

ガイドブックに載っている登山道が誰も管理がいないとは一般登山者は知らない。未執行区間の解消は一刻も早く

### 行政手続きの簡素化や相互理解

簡素化

登山道整備での土地借用手続きの簡素化	許認可の簡素化
--------------------	---------

相互理解

関係行政機関に理解を求め先ではないのか	行政体制(市町村)の対応	総合型協議会の中での登山道の問題の位置づけ→特に市町村長などメンバーがどのような意向を示すか
	管理者の違いや重複により勧められないことの調整	

### 課題の洗い出し・その共有及び優先付け

課題の洗い出しと優先順位付け

課題に優先順位づけ	①短期的課題と②長期的課題の吟味	路線別に優先順位を決めて協働整備	現在一番補修が必要な箇所の見学(認識の一致を)	登山道整備の優先順位とレベル
課題に優先順位をつける	ある程度長期スパンで登山道整備計画を作る	気になっている場所の出しあいと相談し合い	長期的、短期的な課題の洗い出し	登山道の課題の洗い出し

課題の洗い出しと共有

部会メンバーによる定期的な登山道の現地調査→課題と解決の方向性の共有化	やったこと、やることの報告だけでなく、心配や問題を出しあう事	自分の団体の仕事として抱え込まずにみんなと相談し合う事	各自の活動の具体的な結果と改善点、これから予想されることの共有	登山道情報の収集・蓄積・公開(例：荒廃状況データや計画)に向けてのソフト面・ハード面・スタッフの充実
課題の洗い出しと共有	課題を解決する具体的な話し合いの場とする	登山道の崩壊により(山麓の人々が)どう影響がでるか	登山道整備の人材確保	

### 課題解決の進め方（PDCAサイクル）

今までの方針や計画の見直し	モニタリングと検証	登山道と遭難等の関係や道の性質による人の流れの検討	今まで通りでは前に進めない。先ず作る・動く。整ってからでは遅い	問題の収集と蓄積の機能	登山道の維持管理に関する問題点の集約→解決に向けた計画策定
完成したものでなくて良い、PDCAで変化できる体制を	日々のデータ、専門知識、科学的分析	継続的なモニタリング	調査に対する様々な支援	問題の解決方法の検討とスケジュール作り	

### 資金に関すること

林道を直すお金	手弁当・ボランティアだけでは活動に限界。ある程度の予算が必要	使えるお金	環境保全に関わる予算確保をする	予算。先ずは大連協の中で独自の収入を検討→大雪山協力金
事業予算を持つことの検討		お金		